

# エー A G 5 だよ

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業 (<https://ag-5.jp>)



## 香港日本人学校グローバルクラスの5年目の取組

—グローバルクラス(GC)全体の取組とグローバルスタディーズ(GS)の取組の実際—

香港日本人学校香港校小学部5年グローバルクラス担任 白濱ななみ

香港日本人学校香港校小学部では、今日のように変化の激しいグローバル社会を主体的に生き抜いていく児童を育成するために、2016年にグローバルクラス(GC)を開設しました。そして「日本人学校におけるグローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム開発」を進めているAG5の提携校として、カリキュラムの開発や改善に努めながら今年度で5年目となりました。今年度のGC全体の取組とグローバルスタディーズ(GS)の取組について紹介します。

### グローバルクラス(GC)とは

本クラスでは、児童に育ませたい資質として、

- ・グローバル社会で通用する英語コミュニケーション能力
- ・二十一世紀に必要なグローバルスキル(分析力やプレゼンテーション力、調査力、課題解決力など)
- ・グローバル市民としての主体性を掲げています。そのために、英語イマージョン教育・本校独自の教科であるグローバルスタディーズ(GS)・Students Action Project(SAP)という、学んだことを外に発信する活動を柱とした教育活動を行っています。

### 一 今年度のGC全体の取組

#### (1) ICT環境の充実

校内全館にモニターが整備されたのに伴い、GCに一人一台のクロームブックが導入され、GSのSAPで子どもたち自身が自由な場所で動画を撮って編集し、メッセージ動画を制作するなど、学習の幅が大きく広がりました。今後さらに主体的な活動を実現させるツールとして大いに活用していきたいと考えています。

#### (2) 英語力向上に向けた新たな取組

試験を経て編入学してくるとはい

え、GCの子どもたちの英語力には差があり、全体の英語力を向上させながら、いかにしてこの差を縮めていくかが課題となっています。

#### ① オンライン教材の積極的な活用

子どもそれぞれの英語力に合った教材で学習を進めていくことのできるi-Readyの継続的な活用に加え、今年度はBrainPopも導入しました。

BrainPopには各教科、様々な分野についての動画やワークシート、語彙シートなどが入っています。動画を見て、クイズ形式で確認をするなど教材を組み合わせた活用が可能です。

#### ② 英語の習熟度別レッスングループ

一クラスの英語の授業を三人の教員で担当していることを生かして、授業内では児童の英語力に合わせたグループレッスン(ワーク)を多く取り入れています。また午前中しか授業のない期間には、週に二回、午後には少人数グループ別英語レッスンをしています。一斉授業ではなかなか発言できない子ども、自分のレベルに合った活動ができることで、積極的に英語を使う姿勢が見られます。そのくり返しによってスピーキング力の向上が期待できると考えます。

#### ③ GCライブラーの設置

今年度から新設されたGCライブラーには、フィクションやノンフ

ィクション、図鑑やGSに関連したものなど幅広いジャンルの本が揃っており、子どもたちに人気のある漫画の英語版も置いてあります。今後子どもたちからの要望を聞き、楽しみながら英語の文章に触れられる環境を整えていきたいと考えています。

#### (3) Withコロナを見据えた挑戦

コロナ対策により今までの取組に様々な制限が課せられることになりましたが、ピンチをチャンスに変えるべく実践したことを紹介します。

#### ① GCオンラインアセンブリー

学年関係なくみんなで楽しむことを合言葉にGCアセンブリーをオンラインで実施しました。総勢五十六人。ズームのブレイクアウト機能を使って縦割りでグループ編成することで、学年の枠を越えた活動をオンラインでも行うことができました。

野菜や日用品等から教師が出したお題の物をすばやく持つてくるという家にいるからこそできるゲームで子どもたちは大いに楽しんでいました。

#### ② ハイブリッド型編入学試験の導入

今年度九月の編入学試験の際、コロナ対策の検疫措置のため、受験を断念するという例が出てしまいました。今後の状況を鑑みて、香港以外からの受験機会を確保するために編入試験の方法を次のように変更しま

した。

・環境整備の条件をクリアできる香港以外からの受験者は、オンラインで試験を受けることができる。

・集団面接を実施しない。

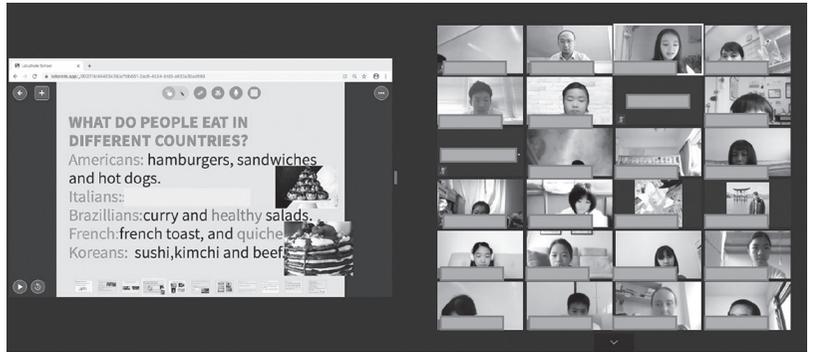
公平性を保つために試験内容や方法を再検討したり、複数のデバイスを用意してもらうなどの条件を設定したりしています。今後主流になるであろうCBTの実施に挑戦するのは意義がありますし、何よりGCに興味を持たれた方に一人でも多く受験してもらいたいと思います。

### ③ プレゼンテーション集会

子どもたちが一学期のGSの学習からさらに探究したいトピックを自由に選び、リサーチしてまとめたブレゼンの場として、昨年度からミニエキシビジョンを始めました。今年度はオンラインで行うことになり、ロイノートやグーグルスライドを使ったプレゼン形式での実施となりました。日本にいる祖父母等、多くの方々に参観していただき、オンラインだったからこそその良さがありませんでした。子どもたちは多くのフィードバックから、自信を持ったたり、新たな課題を見つけたりしたようです。

### ④ オンラインガイダンス

編入学試験に向けたガイダンスをオンラインで実施しました。オンラ



プレゼンテーション集会

インで行ったことにより、日本やアメリカからも申し込みがありました。ブログやホームページに加え、フェイスブックも開設して広報にも力を入れていくこともあり、多くの方々が参加しやすいものになったのではないかと感じています。また運営上でも大がかりな会場準備の手間を省くことができ、ガイダンスは今後もオンラインで実施していく予定です。

## 二 今年度のグローバルスタディーズ(GS)の取組の実際

### (一) 昨年度の成果と課題

教師の入れ替わりが頻繁な日本入学校のGCにとって、誰が担当してもGSの質を維持・向上できるかが大きな課題です。対処策として「GSがどのようなものか」「何を大切にしているのか」「どう展開していくか」などを記載した「GSカリキュラムマップ」を作成しました。AG5先進校視察で同志社国際学院初等部に伺った際に得たアイデアです。

また、GSにおける英語の扱いについても議論を重ねました。バイリンガル教科と銘打っているGSなので、教師もなるべく英語を使用しようとする努力をしました。その結果、英語のレベルに関わらず、以前より英語を使うとする児童の姿がありました。一方で、英語を使用することを大切にあまり、深い思考を促せなかったり、教師も良いタイミングでうまく発問ができなかったりなどの課題も浮かんできました。

そこで今年度は日本語をメインにおきながら、英語担任とタッグを組んでブレゼンやディスカッションなど英語を利用する機会を適宜設けることにしました。

### (二) 今年度の実践と工夫

わたしは今年度からGSを担当し始め、最初の単元「環境と持続可能な社会」を実践しました。

① ユニットのねらいと目指す価値変容  
ユニットのねらいは次の三つです。  
・環境には様々な形があることを理解する。

・適切な環境が十分に保持されない場合、どんな影響があるか考える。  
・それぞれの目的や生態系に合う環境を守るために、自分たちにできることは何かを見出す。

「環境」を多角的視点で捉え直し、環境問題を少しでも自分事として捉え、環境に優しい行動と考え方ができることを目指しました。

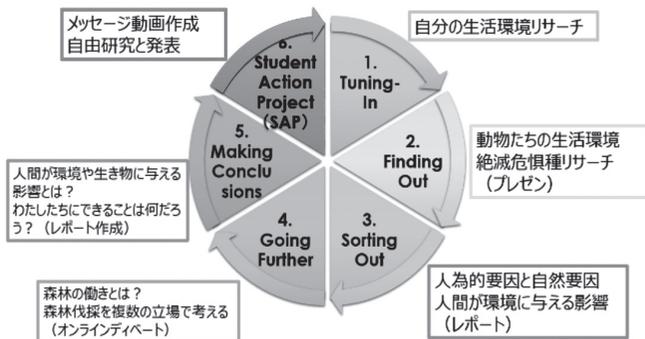
### ② 実践とその工夫

次の図は、実際のユニットの流れを表した Inquiry Cycleです。昨年度作成したカリキュラムマップを参考にしながらも、K\*WLチャートから見えてきた実態に合わせて題材を変えたり、子どもたちの疑問を課題として設定したりして、今年度に合った流れを心掛けました。例えば、最初のリサーチは「自分の生活はどのくらい自然や生き物に支えられているのか」という、ある児童の疑問をテーマとして設定しました。

このユニットでは英語で二回プレ

\*知っていること、知りたいこと、学んだことを書き留めるチャート

ゼンを行い、英語教師にも参加してもらいました。そうすることで、英語を少しでも使おうという意欲の喚起をねらいました。またプレゼン資料の英語表現も添削してもらい、このユニットの英語表現を習得する機会として、日本人教師ではできないところをカバーしてもらえました。また、レポート作成やプレゼンにおいてクロームブックを積極的に使いました。新しいツールの使い方を学ぶことで、表現方法を増やし、自分の考えを伝えるために適したより良い方法を選択できるようになります。グーグルドキュメントやグーグルス



ライドを初めて使う子が大半でしたが、使いながら慣れていくという感じで作業が進んでいき、子どもたちのICT機器への順応性の高さには感心しました。いつでも自分専用の機器が使えるGCの強みを今後も生かしていきたいと思っています。

③ 成果と今後の課題

昨年度作成したカリキュラムマップは初めて指導する際のGSの道しるべとして活用することができました。これに今回の実践をもとにした加除修正を加えることが、GSの質の維持・向上につながると考えます。またディベートを通して、一つの問題を多様な視点から考えることができるようになったのも成果の一つです。今回は、ディベートの流れをつかむことや、いろいろな立場から考えるものの見方を大切にできなかったため、英語の使用については特に触れませんでした。しかし、ディベートで使う英語も指導事項に挙げられているので、英語教師に指導してもらい、英語でチャレンジする機会も必要です。残り二つのトピックの中で、英語を交えたディベートも取り入れようと思っています。

(3) GSで見えてきた課題と改善策、今年度の方向性

GSを実践してみても一番難しかったのが評価です。例えばプレゼン力について、二回行ったプレゼンを比較することでその子の変容を見てとることができました。しかし五年生の段階でどんな姿に達していればいいのか曖昧で、一回目からは良かったけれど今のプレゼン力が四段階で表した時にどこにあたるのかについては迷ってしまいます。

また担任一人一人が自分の主観で評価するので、四年生担任が設定した基準が、六年生担任の設定した基準より高いという逆転現象が起きる可能性もあります。

今年度の残りの期間で、それぞれの学年でどこまで身に付けさせていくか系統立てて整理し、各学年のルーブリックを作成することで、子どもたち自身の自己評価にもつなげられるのではないかと考えます。昨年度作ったカリキュラムマップと各学年の明確なゴールを引き継いでいけば、初めてGSを担当する教師にとってさらに授業がイメージしやすくなるのではないかと思います。

## 最後に

今年度はコロナの影響でオンライン中心の教育活動が続いています。GCでも不安定な状況に屈することなく担当者全員でタッグを組んで、目指す児童像を達成するために前進してきました。しかし、来年度の教師の入れ替わりで、GC設立当初の実情を良く知る教師が一人もいなくなってしまいます。そんな中であっても、AG5のサポートをいただきながら目の前の課題に対して試行錯誤をくり返し、GCにおける教育活動のさらなる充実に向けて前進続けていきたいと思っています。

目指す児童像を達成するために前進してきました。しかし、来年度の教師の入れ替わりで、GC設立当初の実情を良く知る教師が一人もいなくなってしまいます。そんな中であっても、AG5のサポートをいただきながら目の前の課題に対して試行錯誤をくり返し、GCにおける教育活動のさらなる充実に向けて前進続けていきたいと思っています。



ディベートに向けた話し合い



一人一台のクロームブック導入